

明るく元気の出る町

平成6年7月1日発行・毎月1日 編集・発行 / 秋田県東由利町役場企画課

広報

ひがしゆり

HIGASHIYURI

東由利町

1994

7

NO.472



親子でコーヒーカップを製作

少年少女サークル・陶芸教室(6月11日)

6月
定例議会

行政報告をする阿部町長



今年こそ豊作に

天候に恵まれ順調な農作業

「こまち」と「ササ」で
94%の作付け

昨年は、大変な冷害に見舞われ、今年の稲作を心配してきたところですが、田植えから天候に恵まれたこともあり、今のところ順調に推移しています。このままの状態で推移し、今年には豊作になればと祈念しているところであり、稲の作付面積は、全体で九九・二%、このうちあきたこまちが七五八・九%（七六・六%）、ササニシキが一七・二%（一七・四%）で、この二品種で九三〇・九%（九四%）となっています。また、転作緩和面積が二四%に

対して、復田面積が二四・六%となっており、復田率は一〇二・五%となっています。たばこの耕作面積は、二四・二%で昨年より〇・四%の減少、耕作者は五七名で昨年より二人減少しています。

町直営造林事業は、一七名の作業員で作業が進められています。現在は八・四%の地ごしらえと七四・五%の下刈り作業が行われています。植栽は秋に行う予定です。森林所有者等への整備意欲の喚起や指導啓蒙を行う「森林整備推進活動事業」では、今年度森林整備推進員として、館西の佐藤恒悦氏と五海保の嶽石文男氏を委嘱しています。

第三回議会定例会は六月二十一日日招集され、阿部幸悦町長の行政報告、二氏の一般質問の後、多目的研修集会施設に関する条例の一部を改正する条例など四議案を原案どおり可決。陳情、請願を委員会に付託しました。翌二十二日に委員会審議を行い、二十三日に平成六年度一般会計補正予算と三特別会計の補正予算を原案どおり可決し、閉会しました。

行政報告

宿の河川公園 秋に工事着工

四月からスタートしたほのほの祝金贈呈の状況は六月七日現在、結婚祝い金、出生祝い金とも六件となっています。また、東北電力から防犯灯十二基が寄贈されました。自治会の要望にこたえるために利用したいと思います。

四月から本格稼働しているいちよう館のデイサービス部門は、六月十四日現在五十七名が登録しており、増加の傾向にあります。五月末までの利用者は、一日平均七・五人、平均年齢が七七・八歳となっており、利用者から大

変喜ばれております。同館の在宅介護支援センターでは、五月末までに四十人が利用し、四月に十件、五月に十三件の訪問を行っています。

宿の桜並木周辺の河川公園整備は、県が事業主体となって行われていますが、一一、七九〇平方メートルの用地買収が完了しました。秋にも着工の見通しで、平成八年度の完成予定となっています。国道一〇七号奥ヶ沢工区は、今年十月に完成の予定で、竣工式は、十月十三日に本町で行われます。また、久保・板戸間は調査費の予算を要望しており、この予算がつけば、来年度工事着工の見通しです。道の駅は、今年度一億五千万円の事業でトイレ、案内所などの建物が整備され、完成は平成七年度の予定です。黒沢地区テレビ難視聴地域解消事業は、県の補助がつく見通しとなり、三百万円の事業費が進められることになりました。

町税連続完納29年達成

平成五年度の町税、国保税が完納され、これで二九年連続の完納となりました。町民の方々のご協力に感謝いたします。平成四年八月から着工していた広域ゴミ処理施設は、四月に本体工事が完成し、六月七日に安全祈願祭と火入れ式を行いました。八月十一日には竣工式が予定されています。同処理場は、総事業費が四二億円、延面積三、六四六平方メートル、一日一六時間の稼働で、九七%のゴミ処理が可能な施設です。

一般質問

佐々木長円議員 し尿処理をめぐる一連の報道で、区割り決定が、町民サービズ低下につながるのか。また、新規業者の営業範囲が狭くなったことへの補償は

町長 許可の仕方には、町内全域と区割りの方法がある。区割り決定後、既存業者と新規業者双方に「町民サービズの低下につながるよう」指導していく。また、新規業者の営業範囲は、自家処理の多い地域であり、今後の努力次第では、十分営業できるものと思う

小松慎一議員 ①地域活性化拠点につき目指すものを明確に、また総事業費と財源対策、ショッピングセンターへの入店希望状況、レストラン、温泉保養施設の管理運営計画はどうなっているか②米の部分開放後の稲作農家への指導方向は③役場内に林業専門の担当課の設置を④嫁不足対策に積極対応を⑤町外からの学校教職員に簡易宿泊施設を

町長 ①活性化拠点施設は、地域の資源を生かした求心力のある町づくりの拠点となる施設である。総事業費はおおむね三十億（前期二十億、後期十億）程度、国の補助金と地方債が大きな財源。ショッピングセンターは、現在会議を行っている状況であり、希望の取

りまとめまで行っていない。また、レストラン、温泉保養施設の管理運営方法は、検討中である②国、県の動向を見ながら、農家の要望にこたえるべく施策を展開して行きたい③森林の重要性については同感である。専門の課の設

置については今のところ考えていない④プライバシーの問題もあり、非常に大変な問題。思いは同感であるので努力して行きたい⑤ほとんどの先生が三十分前後の通勤時間であり、宿泊施設の要望は少ないと考えている

平成6年度一般会計に2億5千万円を追加

定例議会に上程された八議案のうち、平成六年度一般会計補正予算は、同予算に二億五千四百七十九万円を追加し、総額を三十七億四百二十九万九千円としたものです。主なものは▼大平スキー場整備事業八千三百七十万円▼農業用施設災害復旧事業三千八百五十三万

千円▼第三期山村振興事業三千七百八十二万円▼道路新設改良費三千四百六十万円▼地域振興基金積立金二千三百六十九万円一などとなっています。

「米価引き上げの意見書」可決

議員提出の「生産費及び所得補償方式による生産者米価の大幅引き上げ等を求める意見書」ほか二意見書を可決しました。

議会特別委員会

町活性化拠点施設に最終提言

直営に近い方式で管理を

昨年三月の定例議会で設置された拠点施設整備推進特別委員会（遠藤忠平委員長・委員八名）が六月二十一日、「レストラン、温泉施設は直営に近い

から実施計画へと進行し、特別委員会の所期の目的は達成された」として、今回最終提言を行ったものです。

最終提言の概要は次のとおりです。

一、総論

「レストラン、温泉施設は直営に近い公社方式の選択を」などとした最終提言を町に提出、その内容が六月二十三日の議会本会議に報告されました。

拠点施設として構想されてきた個々の各施設は、いずれも本町の活性化のために不可欠なものであるとする認識は変わらないが、それぞれの施設整備の具体化のためには、よりの確な財源見通しと適切な実施時期、施設のハー

ド面や運営のソフト面について一層綿密な調査研究が必要である。本町の活性化拠点施設という所期の目的に沿い、将来に禍根を残さない施設に仕上げる観点からも、今後とも町民並びに議会との合意形成の場を数多く設けるよう配慮すべきである。

二、個別施設について

①レストラン及び温泉施設について 規模・外観・事業費等はおおむね原案を妥当と判断できるが、全体的な配置並びに構造等の細部についてはなお研究工夫の余地があり可能な限り検討を加えられたい。なお、両施設の一体経営がコスト低減の面からもベターと考察され、形態は直営に近い形の公社方式の選択が望ましい。

②公設小売市場（ショッピングセンター）について 町民の早期実現への期待が大きい一方で、採算性を危惧する地元業者の慎重な意向もあるが、早期に町としての具体的基本方針を明示し、関係者の合意形成を図って町民の期待に応えるべきである。

意見集中

130人が集う

本町出身者の首都圏在住の方で組織されている東京東由利会（遠藤三郎会長・会員二七五名）の総会が五月二九日、東京都の北区赤羽会館で行われ、会員など一三〇人余りが出席しました。

同会は、昭和三七年に「東由利村出身者の集い」として、会員九六人で発足。平成四年には三〇周年を迎え、会員数も二四〇人余りの大きな会として活動しています。

方言を交えて 楽しい1日に

総会では、遠藤会長が「故郷東由利町や会員の協力があり、会の活動が年々活発となっております、大変喜ばしい。今日は、故郷を思い出し、東由利の方言を交えて楽しい一日にしましょう」とあいさつ。引き続き、阿部幸悦町長が「昨年は、冷害、米の部分開放と農業を基幹産業とする本町としては、記憶に残る一年であった。今年は、天候にも恵まれ、農作業も順調に推移している。今年こそ豊作になるよう祈念したい」と述べた後、合併四〇年、町制施行二〇周年記念事業や道の駅、活性化



▲照明が増設され、ナイターはカラーになる。いっそうあざやかに

ゲレンデは ゆるやかに長く

スキー場
整備概要

照明は

カラーシャドー

国道一〇七号から車で五分のファミリーゲレンデとして好評を得ている大平スキー場は、定例議会でも、用地の買収、整備関係の予算が可決され、今年度一億四千三百万円の事業費でゲレンデや照明が整備されることになりました。

ゲレンデ整備では、周辺の水田や山林を買収し面積を広げ、今までの第一、第二リフトの斜面をゆるやかに（最大斜度を十八度から二十一・三度に）し、滑走距離が今までの二百七十メートルから四百メートルに延長されます。さらに第二リフトを第一リフトの延長線上に移動、第

三リフトも若干移動され、これまでの第二リフト側の斜面がメインゲレンデとなります。

一方、設置してから十年以上経過した照明灯は老朽化がめだち、利用者から「暗くて滑りにくい」と不評の声があることから、照明灯が増設され、明るくなります。また、頂上付近には、カラーシャドーの照明が登場し、スキー場利用者はもちろん、国道からも鮮やかなイルミネーションを楽しむことができるようになります。

これらの整備と併せて、新型の圧雪車も導入され、これまで五十センチの積雪がないと滑走できなかったものが、十センチの積雪でも滑走が可能となります。工事は八月中旬から始められ、今年十二月のオープンに間に合うように整備が進められる予定です。



▲思い出話に花が咲きます

特産品振興

東京東由利会に



▶笑顔いっぱい楽しいひととき

拠点施設整備など、本町の重点事業を説明しました。また阿部副町議会議長は「東由利は、今、緑が一番きれいな時期を迎えている。この自然を大切に、活力ある町にするため、議会も全力で取り組んでいる。皆さんのご指導、ご助言をお願いしたい」とあいさつ。小松順之助教育委員長、阿部和雄J A東由利代表理事組合長が近況報告を行いました。

その後の懇親会では、山菜などの地元の特産品を使った特産品開発への意見や現在売り出されている産物への要望が数多く出されました。中には東京都の奥多摩で売り出されているフキ、ワラビなどの特産品を持ち寄り、「これだっ



▲バンザイ三唱で来年の再会を誓った

東京東由利会に出席して

東京東由利会の総会が五月二十九日に東京都の北区赤羽会館で開かれました。総会には阿部議長、小松教育委員長、阿部JA東由利代表理事組合長も招待され共々出席させていただきました。遠藤三郎会長以下、今年には百三十名の会員参加者でありました。

町出身者の会には、このほかにも宿小会や老方会など小学校範囲の集まりがあります。どの集まりも故郷秋田への思い、東由利町への思いは大変なものがあります。今回の東由利会でもその思いに込めるべく、今の町の状況、克服すべき課題等を挨拶かたがたご報

告申しあげました。会場は会員同士の東由利弁での近況報告や情報交換の場にもなっております。

いつもこの会に出席するたびに悩む事が、町から持参する「おみやげ」を何にするかということでした。今年は大変な米不足のほずですから純粹の「あきたこまち」のお握りでも持参したらと考えたりしましたが、結局、佐々木精人さんの「バラ」にしました。会場に飾ってもらい、わが町でも農林水産大臣賞をもらうほど、こんなに見事な「花」を造る農家も出て来ましたと紹介し、お帰りにはどうぞ持って行ってくださいと申し上げたら歓声が上がりました。参加者を見てちよと本数が足らなかつたかなと思いつつも、いとお土産になったとホッとしましたので

した。

直会に移り会場を回っていったら「わらび」を持参して来たテーブルがありました。この日のために実家から送ってもらったのだそうです。大変嬉しそうに、またおいしそうに食べていました。そして町長来年は是非「これももって来てくれとのことでした。思い知りました。故里とはこのわらびに象徴されるものだったのだと。来年のお土産は決めました。「わらびも持って来ます」とその場で公約をしたものです。自分達の足元をもっと大切にしなければとつくづく思わせられた東由利会でありました。遠藤会長はじめ役員の皆様にも心からお礼を申し上げます。

町長

悦 幸 部 阿 長 町

日記



▲思わず出る笑顔と手拍子（写真・八塩小学区敬老会）、円内は男性の最高齢者、阿部喜代蔵さん、元気に出席

敬老会

もっともっと
長生きしてねー

歌や踊りに笑顔いっぱい

平成六年度の敬老会が六月十五日（高瀬小学校区）、十六日（八塩同）、十七日（大琴同）の三日間有隣館で行われました。今年は七十歳以上のお年寄り八百七十五人をご招待し、このうち四百十八人が元気に出席しました。

敬老会では、阿部幸悦町長が「今年、合併四十年、町制施行二十周年の記念の年。今日まで歩んで来た時代を振り返り、これからの町づくりのために生かして行く節目の年でもある。皆さんが築き上げて来た実績をわれわれ現役が後継者へ確実に引き継いでいくためにも頑張りをあえる年にした」とあいさつ。九十歳以上の三十一人に長寿祝い金、米寿（満八十七歳）を迎えられた二十四人に敬老祝い金、八十歳を迎えられた三十六人に肖像写真と座布団が贈られました。

その後の懇親会では、民謡同好会が自慢の歌や踊りを披露、会場からは大きな拍手がわき上がっていました。

町一番の長寿者は女性では今年九月に百一歳を迎える大琴の梅津ヤスさん、男性では九十六歳を迎えられ、元気で敬老会に出席された大琴の阿部喜代蔵さんです。

ますます元気で町の長寿記録を延ばしてほしいものです。

金婚式は九月に

毎年敬老会と一緒に行われていた、金婚を迎えられていた方へのお祝いは、九月中旬に「金婚式」を行い、その席上で行われることになりました。

まだまだ元気いっぱい
長寿祝金贈呈者（敬称略）

大琴	梅津ヤス	一〇〇歳
大琴	佐々木ノエ	九六歳
大琴	阿部喜代蔵	九六歳
館合新田	畠山アキヨ	九五歳
下小屋	小野秀治	九五歳
大吹川	佐藤千代作	九四歳
十二ノ前	阿部サタエ	九四歳
蔵	小松周助	九四歳
蔵	大沼タケミ	九三歳
葎沢	佐藤千吉	九三歳
石高	小松ハルヨ	九三歳
宇戸坂	高橋タケヨ	九三歳
高戸屋	小松慶治郎	九二歳
須郷	高橋タケヨ	九二歳
大琴	梅津千代松	九二歳
寺田	高橋春松	九二歳
袖山	畠山ミツヨ	九二歳
下通	佐藤ミツノ	九一歳
田代	佐藤アキ	九一歳
黒渕	佐藤アサノ	九一歳
岩館	伊東潔	九一歳
祝沢	長谷山武之助	九一歳
須郷	柴田サタヲ	九一歳
下通	福田末造	九〇歳
岩館	石渡ミオノ	九〇歳
館合新田	小野キクヨ	九〇歳
田代	渡辺哲治郎	九〇歳
小倉	遠藤イト	九〇歳
横渡	阿部マサノ	九〇歳
久保	大場ハツエ	九〇歳
野田	遠藤チヨノ	九〇歳

第39回町畜産共進会

自慢の牛70頭が勢ぞろい



▶優良牛が多数出陳され、入念な審査



第三十九回町畜産共進会が例年より一か月ほど早い六月十四日、畜産広場で開催されました。当日は、梅雨入り直後とあって、朝からあいにくの雨模様

「今日だけは
おれが主役」

育成区・成牛三区が激戦

これが今年の優等牛だ！

(出陳者敬称略)

《黒毛和種・育成区》

- ①ふくはな7 (蔵新田・伊東正男)
- ②とよひめ (石高・斎藤正志)

《同・若牛区》

- 第4ふくはな8 (岩館・阿部仁志)

《同・成牛一区》

- さわ (宿・小野長兵衛)

《同・成牛二区》

- あきひかり9 (館合新田・高橋勝美)

《同・成牛三区》

- さとみ (館合新田・小野一郎)

《同・繁殖雌牛群区 (個人出陳)》

- こうしん・ふくひめ・ふじふく

(宿・小野長兵衛)

《ホルスタイン種・未經産の部》

- スリーファーム ストリグラ

- ハッピー (下吹・小野勲一)

《同・経産の部》

- フィンランド スノーバーク

- ケンドール (舟木・大庭喜一郎)

《ジャージー種・未經産の部》

- ウイローロマンス マイルストーン

- メドレー (島・畑山克司)

《同・経産の部》

- ウイローロマンス パフォーミン

- グ プリンセス (島・畑山克司)

《団体賞》

- 肉用牛▼①館合和牛組合②久山和牛改良研究会③宿・下吹畜産改良組合
- 乳用牛▼①宿地区②蔵地区

様の天気となりましたが、黒毛和種五十九頭、ホルスタイン種七頭、ジャージー種四頭の計七十頭が出陳されました。開会式で町畜産共進会運営委員会長の阿部幸悦町長が「あきたこまちと由利牛の里」をスローガンにしている本町にとって、畜産は欠かせないもの。平成五年には、由利家畜市場の上場頭数が千十頭となり、価格低迷にもかかわらず千頭を超えたことは意義深い。農家の方々の努力に感謝するとともに、一層の頑張りを期待したい」と出陳者を激励しました。

引き続き黒毛和種で六部門、ホルスタイン種、ジャージー種でそれぞれ二部門の計十部門で審査が行われ、それぞれ優等賞(別掲載)、一等賞、二等賞、三等賞を選定しました。特に育成区、成牛三区は、審査時間が約一時間にも及び、これまでにない激戦となりました。また、肉用牛の団体賞では館合和牛組合が他を大きく引き離し、六連覇を果たしました。

また、和牛繁殖農家の目標である「子牛は一年一産」を達成した方を称えようと昨年度から創設された「平均分娩間隔一年一産表彰制度」では、平成五年度に一年一産の子牛を生産した畜産農家七十九名を表彰しました。

審査講評で県中央家畜保健衛生所の杉本宣夫主席専門員は「発育良好で管理面でもしっかりとしており、バランスの良い牛が多かった。東由利町は県内一の和牛生産地であり、今後とも輸入牛肉に負けない高品質の肉牛生産に頑張ってもらいたい。一層の育種改良をお願いしたい」と講評しました。

例年、昼食時に実施して好評を得ている、「牛肉、牛乳の食べ放題」では、牛肉五十銚と搾りたての牛乳六十銚が準備され、農家からは「とてもおいしい。来年もぜひ行ってほしい」と大好評でした。



合併40年・町制施行20周年記念

浅利香津代芝居公演は17日に



整理券が必要です。

浅利さんは、秋田市出身で、芸術祭優秀賞を受賞した「釈迦内極唄」をはじめ、ドラマ「雲のじゅうたん」など数多くの舞台、ドラマに出演し、活躍しています。今回公演される「影法師」は、髪結い

(江戸時代)で一人暮らしをしている女が、死んだ亭主の仏壇を相手に、出会いから夫婦になるまでをチビチビ一杯やりながらおしゃべりをする、といった趣向。軽妙な語り口から、いつの世も変わらぬ夫婦愛のあれこれを通して、人

間の夢や生きる力を呼び起こしてくれる作品です。
なお、当日は、上演中の会場の出入りやビデオ、カメラ等の撮影が禁止されています。また、入場整理券の申し込み(電話申し込み可)は、役場企画課で受け付けていますが、マイクを使わないナマ公演という関係で数に限りがありますので、お早めに。
詳しくは、役場企画課まで。

合併四十年、町制施行二十周年記念事業の一環として、浅利香津代さんの一人芝居が七月十七日に有鄰館で行われます。演目は「影法師」。当日は、昼(午後二時開演)・夜(午後六時三十分同)の二回公演で、入場は無料ですが

イメージソングの歌詞に続き……

東由利の新民謡「歌詞」募集

町では、東由利の新しい民謡を作ろうと、「歌詞」を募集しています。応募要領は次のとおりです。

《応募規定》

・内容 東由利の暮らしの中から生まれる、生活の香りのする温もりのある心の唄で、郷土色豊かにふるさとへの思いをうたいこんだもの。

・歌詞 四小節の四番まで。

《応募締切》

七月二十日(月)「必着」

《応募方法》

・四百字詰め原稿用紙に作品

と住所、氏名、年齢、電話番号を書いて封書で応募してください。

・応募作品は未発表のものに限りますが、数に制限はありません。ただし、応募作品は返却しません。

《入選及び褒賞》

・入選(採用) 一点 賞金十万円

・佳作 若干 賞金三万円

※なお、入選作品の著作権等は町に帰属。また、応募作品について、補筆のうえ採用することもあります。

《入賞作品の発表》

・入賞発表は、「広報ひがしゆり」で行うとともに、入賞者に直接通知します。

▽問い合わせ先及び応募先
〒015102

秋田県由利郡東由利町老方字
後田七十番地三

東由利町役場 企画課

(電話) 018416912

110 (FAX) 01841

6912526)

6912526)



自治会対抗で優勝杯を贈呈

町教委。スポーツ祭を創設



▲優勝杯

町教育委員会では、今年度から「東由利町スポーツ祭」を創設、年四回の自治会対抗種目別大会を通して、最も成績の良かった自治会に優勝杯を贈ることになりました。

周年を記念して行われるこのスポーツ祭は、生涯スポーツの気運を盛り上げ、また、地域、世代間の交流をねらいとして毎年行われることとなります。

六月二十六日のゲートボールを皮切りに、八月二十八日のトラック&フィールド競技、十月九日のグラウンド・ゴルフとラージボール卓球、来年二月十九日の綱引き大会の四つの大会（五種目）で得点を

争います。人数調整のため、小自治会の合併チームの登録も認められています。会場は「台山文教・スポーツの杜」各施設で、表彰式は来年八月に予定されています。

町教育委員会では「年間を通して、魅力的なスポーツ行事を提供して行きたい。各大会を通して、体力づくりはもちろん、自治会、世代の交流が活発になれば…」と話しています。

虫歯なんてないもん。2歳児健診より

<p>▲小笠原康人くん (土場沢順さん長男)</p> 	<p>▲山田菜津美ちゃん (黒淵等さん長女)</p> 	<p>▲畠山麻美ちゃん (大吹川勉さん二女)</p> 	<p>▲小松祐樹くん (畑村清和さん長男)</p> 
<p>▲佐々木亜美ちゃん (大琴・静八さん長女)</p> 	<p>▲小松慧斗くん (下通敏貴さん長男)</p> 	<p>▲高橋孝聖くん (新町・孝紀さん長男)</p> 	<p>▲高橋麻美ちゃん (五海保正さん二女)</p> 

畑山前教育長が地方教育功勞表彰



▲畑山昭一氏

畑山昭一前教育長が地方教育功勞者として全国町村教育長会会長表彰を受賞しました。畑山氏は、昭和六十年十月に東由利中学校長を退職

され、教育長に就任。

二期八年にわたり本町教育振興に多大な貢献をされました。この間、昭和二十四年からの教職の経験を生かし、学校教育の振興はもとより、文化財保護条例の設置など社会教育の振興にも尽力されました。

表彰式は、六月一日、東京都千代田区の国立教育会館で開かれた全国町村教育長会議の席上で行われました。

♥愛の献血

成分献血 (5月16日)

- | | |
|-------|-------|
| 小松 長敬 | 植村 暁子 |
| 阿部 正輝 | 遠藤 克幸 |
| 遠藤 哲也 | |
- 6月2日
- 四〇〇cc
- | | |
|-------|--------|
| 小松 恵治 | 佐々木日出夫 |
| 高橋 重保 | 伊東 健市 |
| 小松 健 | 佐藤 博敦 |
| 遠藤 哲也 | 畠山 明 |
| 小野 弘喜 | 佐々木 誠 |
| 遠藤 克幸 | 佐々木 興 |

二〇〇cc

ありがとうございました

- | | |
|--------|-------|
| 小笠原キワ子 | 木島 昇子 |
| 小野 照雄 | 小野美和子 |
| 阿部 弘章 | 今野 真実 |
| 渡辺 祥一 | 小野 広子 |
| 工藤 良 | 小松 和弘 |
| 嶽石 文弥 | 阿部恵美子 |
| 高橋 孝紀 | 石渡 博澄 |
| 石渡 洋子 | 小松 聖明 |
| 佐藤 栄夫 | 畠山 竜紀 |
| 畑山千江子 | 阿部志保子 |
| 大場 里美 | 小松千司子 |
- | | |
|-------|-------|
| 小松五緒子 | 柴 正徳 |
| 畑山 豊隆 | 大日向睦子 |
| 大庭 和子 | 大日向静子 |
| 三浦 晃司 | 八嶋 俊子 |
| 猪股 友子 | 小野 博子 |
| 佐藤 明 | 高橋 雅之 |
| 遠藤 羊子 | 鈴木 政也 |
| 小松由貴雄 | 佐藤 直人 |
| 工藤 明美 | 小野 一成 |
| 遠藤 力 | 小玉 雅之 |
| 遠藤 静 | 長谷山成子 |
| 遠藤由美子 | 佐藤 忍 |
| 阿部 司 | 阿部 隆幸 |
| 高橋 義和 | 高橋 宏幸 |
| 阿部 等 | 高橋 洋 |

念願の初優勝

尾崎小、道川小を撃破

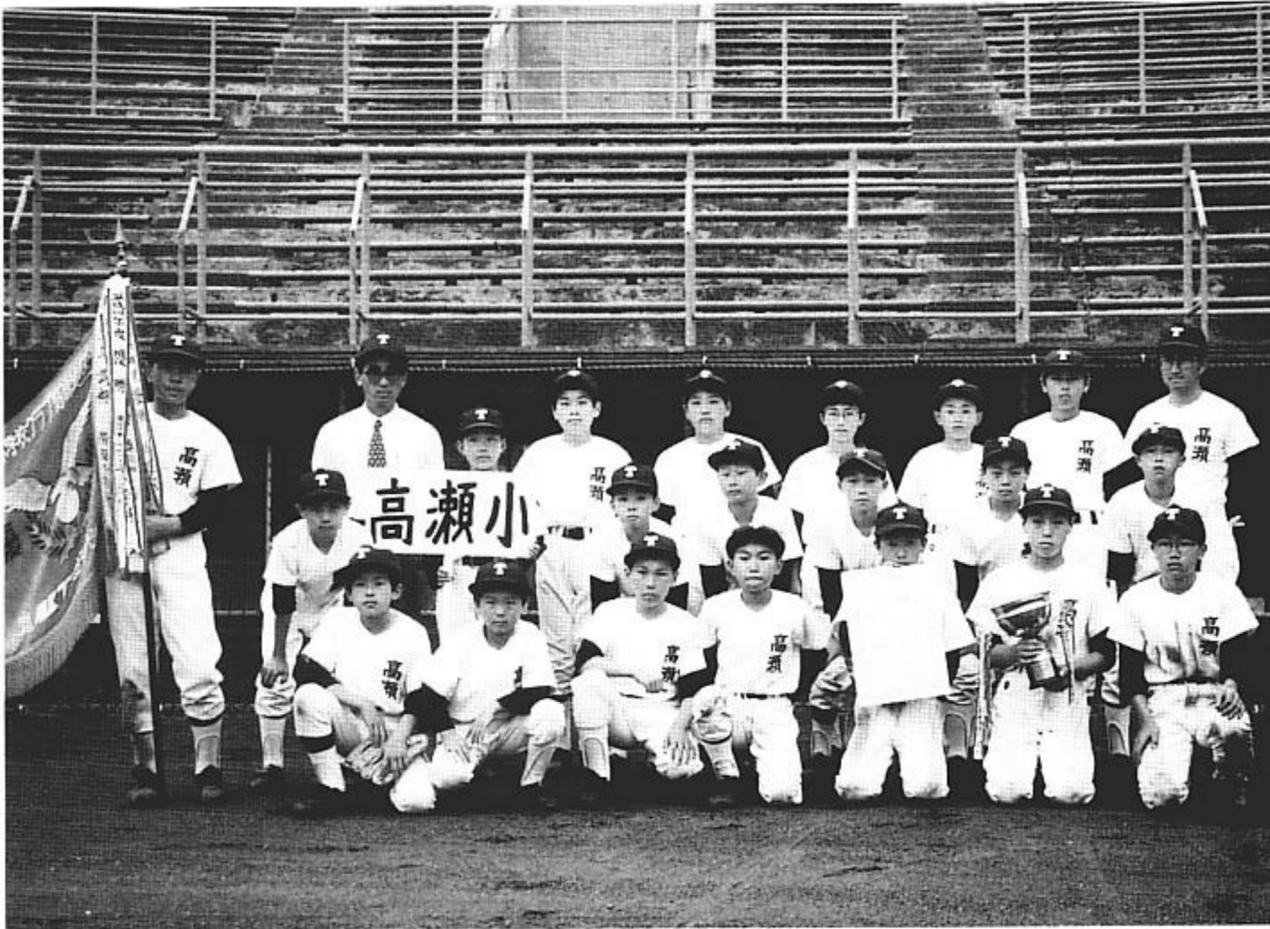
第二十一回本荘市由利郡小学校野球大会が六月十八日から二十日まで本荘市内の三会場で行われ、本町の高瀬小

が初優勝を飾りました。優勝候補の一角に挙げられていた高瀬小は、一、二回戦、準々決勝を順当に勝ち上がり、準決勝で強敵尾崎小と対戦。これまでの練習試合では尾崎小に勝つことがなく、子供たちは「これまでの借りは返す」と気合十分。四回に一点を先制されたものの、その裏長短打を集中した猛攻で一挙四点を奪い、さらに五回裏に一点を追加し、五対一で尾崎小を降しました。

決勝戦は、道川小と対決。一回表に高瀬小が二点を入れると、その裏道川小が三点を入れて逆転。点の取り合いになるかと思われたものの、その後は一方的な高瀬ペース。毎回得点の十一点を挙げ、守っては、エースの阿部聡君が、二回以降道川打線をピシヤリと抑え、十一対三で道川小を破り、念願の初優勝を遂げたものです。県大会は七月二日から、天王町の長沼球場ほか三会場で行われます。

都市大会で栄冠

花を添える



▲念願の初優勝に輝いた高瀬小ナイン

県大会での目標は

ズバリ『優勝』

子供たちが大きく成長

(父母の会会長 遠藤利通さん)



試合を重ねるごとに大きくなって行く子供たちを見てとても頼もしかった。「尾崎小への借りを返してから卒業させたい」とずっと思っていたので、この思いを果たせた今は、感無量の気持ち。応援してくれた皆さんに感謝するとともに、県大会では、由利の代表に恥じない試合をしてほしい。

主将・遠藤 哲也くん



楽な気持ちで試合に望むことができた。尾崎小との試合は、緊張したけど、「絶対に勝てる」と思って試合をしていたので、勝ったときはとてもうれしかった。県大会の目標はズバリ優勝。

副主将・遠藤 洋昌くん



試合では、パスボールをしないように心掛けた。どの試合も途中で気をゆるめなくて戦ったのがよかったと思う。県大会では、元氣よく、思いっきりプレーしたい。

高瀬小健児が

開校10周年に



写真、前列右から大庭直美さん（第1走）、遠藤志保さん（第2走）、遠藤良恵さん（第3走）、杉野さおりさん（第4走）、後列右から遠藤晃人君（第1走）、遠藤洋昌君（第2走）、佐々木康先生、遠藤哲也君（第3走）、佐藤力君（第4走）

陸上競技



▲「今日のピッチングは90点くらい」と自己分析した阿部聡君の力投



▲お母さんたちのパワーはすごい！
応援席は大さわぎ



▲ダイヤモンドを一周する高瀬小ナイン

四百メートルリレーでアベック優勝

第四十八回本荘市由利郡陸上競技大会が六月二日、本荘市の水林陸上競技場で行われ、学校対抗四百メートルリレーで高瀬小がアベック優勝しました。

区と比べても上位にランクされるタイムとあって、関係者からは早くも「平成元年の先輩に続き、県大会でも優勝を」との声がささやかれています。

また、同小六年の佐藤力君は、男子百メートル走で優勝、大琴小の小野信弘君は、男子千メートルで二位に入る健闘をみせました。

当日は初夏を思わせる好天となり、四百メートルリレーは女子からスタート。第一走者が好スタートを切り、きれいなバトンタッチでアンカーへつなぎ、追いつける鶴舞小、尾崎小に1秒ほどの差をつけて余裕のゴール。念願の優勝を勝ち取りました。

一方、男子は、第一、第二走者が五位とやや出遅れたものの、第三走者が三位に浮上、アンカーで百メートルの優勝者佐藤力君が、メインスタンド前で二チームを抜き去り、逆転優勝を飾りました。

同小の佐々木康先生は「昨年の夏から体力づくりをしてこの大会に臨んだ。大きな大会で練習以上の力を出すことができた子供たちの精神力が勝因。記録的にもレベルが下がったための優勝ではないので、県大会でも上位を狙いたい」と話しています。

同小では、平成元年にも男子チームが四百メートルリレーで県大会に出場しており、この時は、全国大会まで駒を進め、夢の国立競技場で全国十位の快走をみせています。

県大会は七月十日、雄和町の県営陸上競技場で行われます。

電気点検で一安心

東北電力が労力奉仕

一人暮らし世帯の電気設備を点検し、安全な生活を―と六月二日、東北電力東由利サービスセンターがボランティアで点検整備を行いました。

上川大内サービスセンターと共同で行われたこの事業には、地元の電気工事業者も含め、約十人が参加。四班編成で約四十軒を訪問しました。

参加者は、社会福祉協議会のヘルパーの案内で、一人暮らし世帯を訪問し、電気が正常に流れているかチェックしたり、蛍光灯や電球の清掃などを行いました。

新町の山本ヨネさんは「電気のことには難しく、よくわからないので、点検していただいて非常に助かる。親切なのでとても心強く感じます」と笑顔で話していました。



▶電気設備を点検

二〇〇万歩に挑戦

大曲市の相川さん

「県内一周二〇〇万歩に挑戦しよう」と五月十二日に大曲市をスタートした同市の相川武夫さん（脳内出血のため左の手足が不自由）が、五月三十一日に本町を訪れました。

相川さんは、県内一周四百九十三段（相川さんの約二〇〇万歩に相当）を二、三年で歩く計画で、悪天候の日と土曜、日曜は休み。大曲から半径百段以内の地点では、宿泊せず交通機関で自宅に帰り、翌日その地点からまたスタートするというマイペースの方法で行われています。

相川さんは「これからの社会で地域の人々や家族に迷惑をかけたために、体力のある今、足腰を鍛えようと思い実行した。私のような障害のある人は寝てばかりいてはダメ。私が行動することで、同じ障害をもつ人の励みになればうれしい」と話していました。



▲相川武夫さん

“新玄関”に桜を植樹

畑村自治会



▲畑村自治会が桜を植樹

畑村自治会（猪股徹会長）では、今年十月開通予定の国道一〇七号、童画のトンネル付近に六月十二日、桜の苗木三十本を植樹しました。

同自治会では、「新しい本荘側の玄関口に桜を植えて、町を明るくしたい」と昨年から町に要望。町では、国道整備の一環として黄桜十本、八重桜一十本を準備したものです。

当日は、自治会から七人が参加し、同トンネルの本荘側に黄桜三本と八重桜二本を、本町側に黄桜七本と八重桜十本（本数はスペースの関係）をそれぞれ植樹しました。猪股会長は「トンネルの上は、ちよつとした広場になっており、桜が咲けば花見を楽しむことができる。後々は、ツツジなども植樹し、公園として整備して行きたい」と話しています。



▲ことぶき大学運動会（6月9日）



▲転入教職員が町内を視察（5月30日）



東中が7年ぶりに優勝

町招待中学校野球

東由利町招待中学校野球大会が六月五日、勤労者野球場で行われ、東由利中が昭和六十二年以来七年ぶり三回目の優勝を飾りました。

この大会は、昭和五十七年に野球場に本部棟、ダッグアウト、内野フェンスが整備されたのを記念して行われたもので、今年で十三回目を数えます。今回の招待校は、石沢中、西目中、山内中。時折雨の降るあいにくの天気にもかかわらず、各校選手は、チームメイトや父母らの声援を受け、熱戦を繰り広げました。大会成績は次のとおりです。

《第一試合》

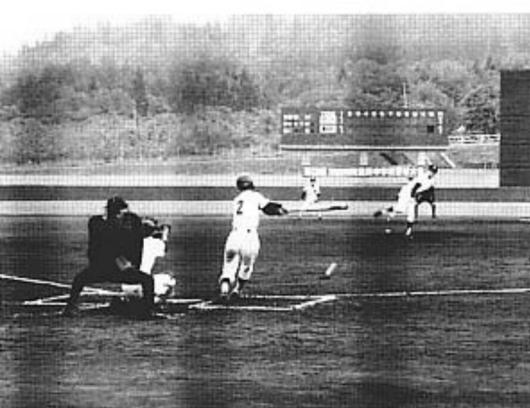
東由利中 5-4 石沢中

《第二試合》

西目中 5-3 山内中

《決勝》

東由利中 7-0 西目中



▲熱戦が展開された招待野球

過去最高の百人が参加

八塩登山



▲思い思いに楽しむ参加者

町の観光拠点で、出羽丘陵の最高峰、八塩山（標高七一二メートル）登山が五月二十九日に行われました。

同山は、一時間あればゆっくり頂上まで登れるとあって、年齢を問わず気軽に登山できる初心者向けの山としても知られ、町外からも好評を得ています。

今回で十六回目を数える登山には町内外からこれまでで最高の約百人が参加。年齢層も二歳から七十一歳までの幅広いものとなりました。登山は、山野草の観察なども兼ねて行われ、山頂では、山菜採りを行う人なども見られ、思い思いに楽しんでいました。

夜間の火災を想定

東光苑で防災訓練

「東光苑で夜間に火災発生」を想定した防災訓練が六月十三日同苑で行われ、地区住民、苑職員、入居者が一体となって消火活動、入居者の避難誘導を行いました。

訓練では、火災を発見した夜勤職員一人が一一九番通報もう一人が火災の発生を苑職員や大蔵地区の住民で組織されている東光苑防災援護会に知らせました。知らせを受けた人達は、初期消火や車イスを使って入居者の避難誘導を行いました。

同苑では、年に二回このような訓練が行われており、十一月には、昼の火災を想定した訓練が予定されています。



▲入居者を車イスでテラスへ

「水防はまかせて」

町消防団が準優勝

本荘由利地区の水防訓練大会に参加した本町消防団が、鳥海町に次いでみごと準優勝を果たしました。

この大会は梅雨の出水期に備え二年に一度本荘市の子吉川河川敷で行われているもので、今年は六月九日市郡内の消防団十一チームが参加し「シート張り工」「木流し工」「川倉工」「積土のう工」の四種目にスピードと技術を競いあいました。

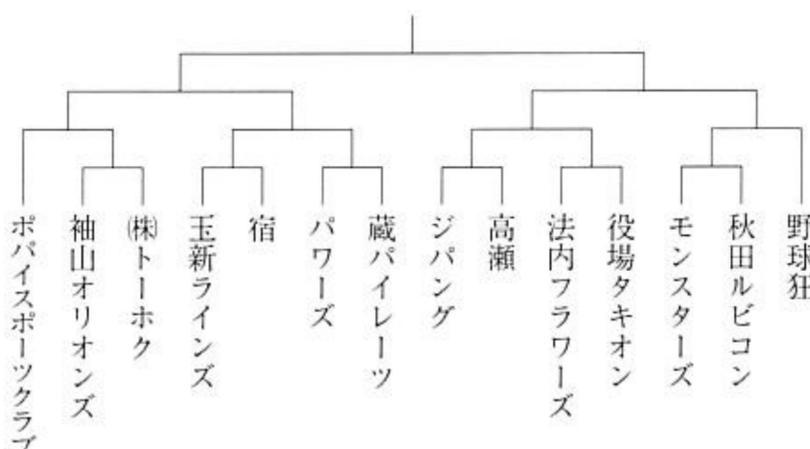
本町から参加した消防団員は部長以上の幹部二十五人で、このうち横山玉一（向田）第一分団長を指揮者とする十一名の選手が、他のチームにまさる機敏な動作で作業を展開し好成績を収めたものです。



▶他のチームにまさる機敏な動作で作業する本町消防団

第3回ナイター野球組合せ

7月4日から・勤労者野球場
午後七時・試合開始



HIGASHIYURI
東由利の話題
TOPICS

町の宝もの

26

茶屋長根

四辺山に囲まれている東由利にとって、隣村へ通ずる峠越え道は欠くことのできない宿命でした。

矢島藩に属するようになってからは特に深い交流ができ、藩への陳情や呼び出しの公用、日用品の買出し、馬のせり市が開かれるごとにこの「茶屋長根」を通りました。矢島酒の樽買いやせりに付いていき、高く売れたので着物を買ってもらったりした話は昭和になつてからも聞かれました。天保年間の大飢饉（ケカチ）の時はお粥を貰う

広報クイズ ④

次の☆印に必要な数字を入れて応募してください。

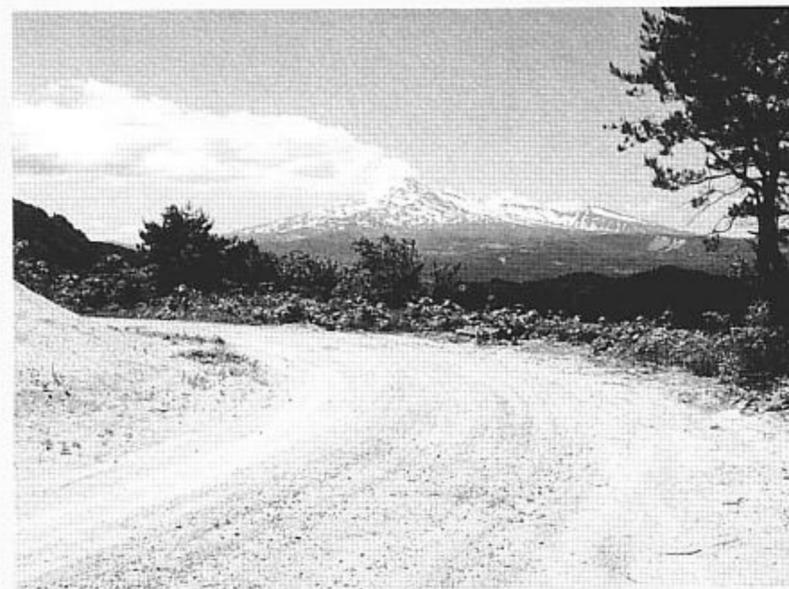
- ①畜産共進会には☆頭の牛が出陳。
- ②東京東由利会総会には☆人が出席。
- ③町招待中学校野球大会で、東中が7年ぶり☆回目の優勝。

※官製はがきに答えの記号・応募者の住所・氏名・年齢・イラストや町に対する要望などを書いてお出しくだ

ため矢島通いをし、朴清水で力尽きた哀れな言い伝えもこの近くです。小松耕輔先生の「お山の細道」は矢島の学校へ通う時の想いと言われます。

写真のようにすばらしい眺めです。

(文・畑山昭一)



さい。

※あて先／東由利町老方 東由利町役場広報係あて

※締切／7月15日(当日消印有効)

※全問正解者の中から抽選で5人の方に素敵な写真盾をプレゼント。

※先月は応募者が少なく3人の方だけでした。全員に写真盾をプレゼントします。当選者は▽小笠原慶蔵さん(横渡)▽小笠原テル子さん(横渡)

▽長谷山一恵さん(舟木)です。応募ありがとうございます。

定期検診

内科検診への関心は非常に高く、わが町の受診率は県内でも上位を占めておりますが、歯科検診を受ける習慣はどうでしょうか。歯は食べることは勿論話すことも、表情を表すことなど生活の総てにかかわりをもっております。

「予防に勝る治療なし」ということはご存じの通りであります。受診によって虫歯や、歯周病の早期発見、早期治療それに必要な予防処置、そして保健指導を受けることは歯の健康維持には欠かせない大事なことです。治療が終わったということでも油断をすると充填(つめた)したものが取れたり、歯の横に虫歯が出来たり、歯が無い(入れ歯)からといってあまく見ていると噛み合わせが悪くなったのを知らずに無理噛みをして顔の形が変わっていたり、顎の関節に炎症を起こしていたり、希には癌が発見されることもあります。

歯磨きにしても定期検診によってその人に適した歯ブラシを選び、正しい磨き方を身につけることによって、歯の疾患にとって大敵である「歯垢」を完全に除去し歯の寿命をより長く保つこととなります。健康の基礎となる歯、一生健康であるために年に二、三回はぜひ定期検診を受けて自分の健康を守る習慣づけこそ大事と考えます。

笹本歯科医院(蔵)

笹本 幸 先生

正しく使って

楽しい花火

子供たちにとって、夏の身近な風物詩と言え「おもちゃ花火」。その多彩な美しい色は大人まで楽しませてくれます。しかし、おもちゃ花火とは言え、原料は火薬。正しく使わないと火災を起こしたり、やけどをしたりすることになります。

火災や事故のない「楽しい花火」にするために次のことを守りましょう。

- 一、花火の使い方、遊び方の注意書をよく読んで必ず守りましょう。

- 二、花火を人や家に向けたり、燃えやすいもののある場所で遊ばないようにしましょう。

- 三、風の強い時や乾燥している時は、花火をやめましょう。

- 四、子供だけの花火はさけ、大人と一緒に遊びましょう。

- 五、花火をほじくったり、たくさんの花火に一度に火をつけないように注意しあいましょう。

- 六、吹き出し、打上げなどの筒ものの花火は、途中で火が消えても絶対に筒をのぞかないでください。

- 七、水バケツを用意し、使い終わった花火は水につけ、楽しんだ後は必ず後片付けをしましょう。

- 八、花火をポケットに入れないようにしましょう。



『民謡は嘘をつかない』そして……

人の心をつなぐ魅力がある

遠藤文吉さん・小倉

第1回本荘追分全国大会日本一の遠藤文吉さん(小倉・59歳)。名古屋に出稼ぎに行ったのをきっかけに「遠友会」を結成し現在会主を務めており、名古屋の民謡仲間とは深い付き合いが続いています。「私から民謡をとったら何も残らない」という程、民謡を大切にしている遠藤さんを紹介します。



いきいき、クローズアップ

出稼ぎ先で深めた 民謡仲間との絆

今から二十二年、三年前、名古屋に出稼ぎに行っていた遠藤さんが、民謡酒房「貴美」へ。「民謡のシンボルをやるよりも、来た人が唄える酒場にしては」と話したのがきっかけで、マスターと友達に。以後、店で三味線を弾いたりしているうちに「教えてほしい」との人が増えはじめ「遠友会」を結成、現在は二十三人の会員がいます。四月中旬に出稼ぎから来て、五月はばいばいは農業に従事。六月から七月までは、月一回の割合で名古屋へ出掛け、三、四日滞在し、発表会や民謡教室を行います。そして十一月には出稼ぎで名古屋へというのが遠藤さんの年間

スケジュール。名古屋では、本荘追分生保内節、長者の山などの全国大会での入賞を目指して練習が行われています。「年に数回は名古屋の友達と遊びに来て、数日泊まって行きます。時間を忘れて、地元の人達と酒を交えながら民謡を歌っているときは、最高の気分」と話す遠藤さん。

昭和五十九年十一月の第一回本荘追分全国大会で優勝。三味線が主だった遠藤さんも、それ以後は、「本気で民謡を歌おうと思った」といいます。「話だけでは、だまされたり、だまされたりすることがある。でも民謡にはそれがない。歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして、人をつなげる不思議な魅力がある。これを知ったらやめられない」と熱く話す遠藤さん。二十代前半から民謡にたずさわり、環境にも恵まれたこともありいろいろな会に出席。「民謡がすべて」とまで言い切っています。

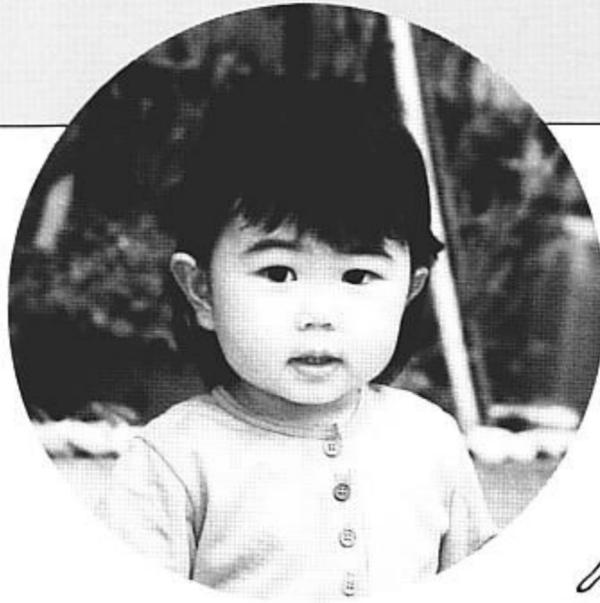
三味線の魅力を 若者に伝えたい

「三味線は、人によって全部音が違う。ギターのようには区切りがないので、どこを握ってもよいのだが、最高の音を出せるところは決まっている。それが数ミリずれても本当の音が出ない」



▲民謡酒房「貴美」で民謡仲間と。左端が遠藤さん

と三味線の難しさを説明したうえで「三味線は、いろいろな弾き方があるが、私は人の心にズシッとくるのが好き。相手の心に感動が伝わった時はたまらない」と魅力を話しています。最近では三味線を弾く人が少なくなり、民謡同好会でも悩みの種の一つ。遠藤さんは「車とパチンコだけでなく、民謡にも目を向けてほしい。長い人生の中で必ずプラスになる。カラオケとあわせて民謡も」と若者への民謡の素晴らしさを訴えています。



わが家の
アイトル

新町・佐々木夏美ちゃん
(H・4・6・27日生まれ)
明さんと節子さん
の長女

「歌や踊りが大好き。最近は何んこつやまのためきさん」
が一番得意です。元気で優しい子に育ってほしい」とお母さんの節子さん。

東由利——ニユースダイジエスト 15 あめの日・あめの時

合併当時を振り返る

子供たちが多く
田んぼの野球が
楽しみ

新処・工藤 実さん



昭和三十年と言えば、私が小学校に入る前の年。法内小学校が火事になり、大騒ぎをした記憶があります。わが家の後ろに学校があったころでした。その当時の子供たちの遊びと

言えば、神社でのかくれんぼや乾いた田んぼでの野球などでした。子供たちが多く、野球は盛り上がりました。ハサを越えたらホームランというルールで日が暮れるまで遊んでいたものでした。

また、「田植え休み」があった時代で、その時の私の仕事は、苗を投げてやる「コネブチ」、家族総出で行われました。今ではすっかり機械化になってしまいが、隣近所で協力しあい手伝うことがほとんどなくなりました。が、当時は当たり前のこと。

地域の仲間意識が旺盛で、お互いの気持ちを通いあい、心豊かな時代でした。

東由利の文芸

せせらぎ句会(六月句会)

柔らかき孫の寝息や初螢
螢灯をたよりて峽の水引きぬ
窓ごしに拾う一句や螢の夜
田帰りの背についてくる河鹿笛
落びしゃく吸む水甘し沢清水
老若き一村動く田植時
又しても堰に落ちたる螢狩り
法堂の静かに崩るる切り牡丹

- 小松 忠正(下 通)
- 小野石路子(上 里)
- 佐藤 正義(湯出野)
- 阿部 澄子(蔵)
- 工藤 武雄(山 崎)
- 遠藤トミ子(小 倉)
- 小松慶治郎(高戸屋)
- 阿部 ナミ(蔵)

高校卒業後、秋田市の専門学校でワープロ、簿記、税務会計などの勉強をした彼は、現在役場で、健診、犬の登録、ゴミ対策などを担当しています。

役場では「みんなの住みやすい環境づくり」のため頑張っています」と話す克幸さん。
休日はドライブに出掛けることが多く、最近では、仁賀保高原、南由利原、秋田ふるさと村など各地の観光名所に。「私は、自然がそのまま残っている所が好き。東由利でも豊かな自然を

遠藤 克幸さん(22歳)
蔵新田・役場勤務



螢棲む清水を育て村おこし
上弦の月押し上げてダム火花
新緑や田面に風の波光る
豊凶は知らず青田に夢つなく
草笛の青き音出し峰のほる
夏来り枯案じたる木も芽吹き
茂りゆくポプラキラキラ風受ける
螢田に下校の自転車灯を連ね
金色の海は夏呼ぶ日暮かな
螢火や遺跡を護りて松沢川
螢火の近づくを待ちぬ車椅子
温泉の下駄カラコロと夕河鹿

- 小笠原亮子(蔵新田)
- 小松 女沙(下小路)
- 嶽石 レイ(五海保)
- 大庭喜右エ門(舟木)
- 高橋ヒデ子(横 渡)
- 小松 徳蔵(湯出野)
- 小笠原トミ(蔵新田)
- 阿部 俊子(横 渡)
- 小野 貞子(蔵新田)
- 菊地 常作(湯出野)
- 高橋民治郎(袖 山)
- 小松順之助(中 通)



大切にしてほしい」と自然のすばらしさを強調していました。
次は、大沼組に勤務している阿部樹悦さんにリレーします。よろしく。

アレン先生の英会話教室 ★★★★★

国際英会話クラス



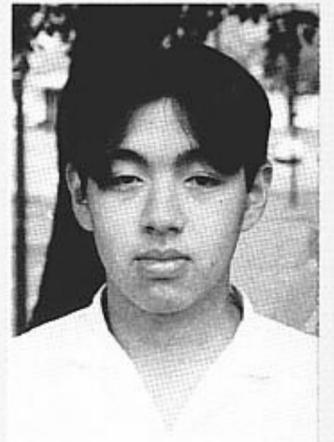
Vol. 4 日常会話

Allen : Grandmother, What kind of school did you go to went you where young. (おばあさん、若いころはどんな学校に行きましたか)
 Grandmother : Until I was 13 years old I whet to a one room school. One teacher had to teach all the grades, first through eighth. (13歳まで1部屋学校に行きました。一人の先生が1年生から8年生まで全員に教えました)
 Allen : The teacher must have been very busy. (先生はとても忙しいでしょう)
 Grandmother : Yes, and she also had to build a fire in the stove and keep it going during the day. (そうです。ストーブに火を焚くと一日中守る責任もありました)
 Allen : How did you go to school? (どうやって学校に行ったの?)
 Grandmother : We walked to school most of the time. (だいたい歩いて行きました)
 Allen : What games did you play at school? (学校では、どんな遊びをしていたの?)
 Grandmother : The boys played baseball or marbles and the girls played running games. In the winter we skated on a nearby pond or went sliding. (男子は野球とビー玉遊び、女子はいろいろな走るゲーム。冬は、隣の池でスケートやソリで遊んだ)
 Allen : Did you like school? (学校は好きでしたか?)
 Grandmother : Yes, we enjoyed those days very much. (ハイ、私たちはそのころとても楽しかったです)

※ 1915 (大正4) 年生まれ、農村で育ったおばあさんとの話。

ハイスクール日記

最後の夏に向けて



下郷分校野球部主将 大庭 司くん

今、僕たち野球部は夏の大会に向けて練習に取り組んでいます。七月

の下旬に行われるこの大会は、僕たち三年生にとって高校生活最後の大会になるので、みんな気合いが入っています。

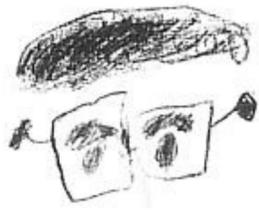
先日行われた春の大会では、守備の乱れにより得点を与えてしまったり、打線のつながりが悪く、なかなかチャンスが活かせなかったりという課題を残してしまいました。このことを念頭において、内野手の細かな連携プレーや外野からの中継プレー、バント処理等に重点を置いた守

備練習、打つ方では、次の打者につなげることを意識したバッティング練習や走者を確実に送るバント練習、また走塁練習にも重点をおいて頑張っています。

野球部は、僕たち三年生が入学してから夏の大会でまだ一勝もあげたことがありません。だから、今年こそはどんなことがあっても勝ちたいと三年生みんなが思っています。また、今後を担う一、二年生にとってもよい刺激になるよう今までにない気迫をもって大会に臨むつもりです。一生懸命練習して、その成果を存分に発揮して頑張ります。

永慶保育園

たにくちまきちゃん (上通)



いとゆきえちゃん (蔵新田)



ぼくの絵 わたしの絵

おとうさんの顔



おのなおとくん (祝沢)



おののぶひろくん (大琴)



7月→データ東由利

〈5/1~5/31〉

人口 () は前月比

- 男.....2,695人 (△3)
- 女.....2,839人 (△5)
- 計.....5,534人 ()
- 世帯数.....1,418戸 (一)

() は1月からの累計

- 出生...4人(17)
- 死亡...1人(23)
- 転入...9人(51)
- 転出...10人(95)

- 火災出動.....0件(0)
- 救急出動.....7件(41)
- 交通事故.....0件(1)
 - 死亡.....0人(0)
 - 傷者.....0人(2)
- 飲酒運転.....0人(0)
- 酒気帯び.....0人(0)

7月の行事

- 3 第8回スポーツ少年団交流大会(勤労者野球場・9時)
- 4 第3回ナイター野球大会開始(勤労者野球場・土、日曜日を除く毎日午後7時)
- 17 浅利香津代「一人芝居講演」(有鄰館・午後2時、午後6時30分)
- 20 郡婦連ブロック研修会(有鄰館・9時30分)
- 23 永慶保育園・東光苑合同夏まつり(東光苑前広場・午後5時)
- 24 町消防訓練大会
- 26~28 少年自然教室(八塩いこいの森)
- 31 第16回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会・東北Iグループ代表決定大会(勤労者野球場・9時30分)

東由利

郷土の野草

No.113



カラスビシャク
(サトイモ科)

文・写真 小松忠正

原野、畑などに自生する多年草で、地下に一センチぐらいの球茎があります。そこから地上に長い柄のついた葉を出します。葉は三枚の小葉です。同じ球茎から葉よりも長い花茎を伸ばし、その先に緑色の長さ五〜七センチの筒状の苞を出し、その中には雄花、下は雌花を花軸にびっしりつけます。花軸の先は苞から外につき出します。漢名は「半夏」といいますが、地方によってヘソクリというところもあります。薬草で球茎をつわりに用いるといわれています。

戸籍の窓口

●お誕生おめでとう

(5/21) (6/20)届出

- ご結婚おめでとう
- 島山 明弘さん 大吹川 本莊市
- 小林 小百合さん 大吹川 本莊市
- 佐々木 良一さん 大吹川 本莊市
- 高橋 和子さん 大吹川 本莊市
- 大塚 和穂さん 大吹川 本莊市
- 佐藤 さえ子さん 大吹川 本莊市
- 小松 芳範さん 大吹川 本莊市
- 浅利 瑠璃子さん 大吹川 本莊市
- ごめい福をお祈りいたします
- 工藤 敏雄さん(67) マツエ夫 山崎
- 高橋 トヨノさん(86) 義男 寺田
- 武田 繁政さん(94) 重雄 須郷
- 佐藤 トヨノさん(94) サイノ下小原夫の母 東光苑
- 佐藤 タケノさん(75) 三郎妻 祝沢

私の好きな風景



田植え作業もすっかり機械化になったこのごろですが、五人で手植えをしている田んぼを見。和やかな風景でした。
(撮影・広報担当)

まごころ

町社会福祉協議会に、佐藤サイさん(下小屋)からご芳志が届けられました。
また、広報送付の謝礼として、島山仁吉さん(寺田出身、仙台市在住)から文庫本が、阿部隆三さん(岩館出身、郡山市在住)から金一封が届けられました。
ありがとうございました。

ほっとき ひととき

この間の土曜日に「キックベースボール」というスポーツを体験しました。野球のルールとはほとんど同じで、サッカーボールをピッチャーが転がして、バッターが足で蹴って走るというもの。テレビで放映されているので知っている人も多いと思いますが、なかなかおもしろい。サッカーをしたことがある人はともかく、思うところがある人はいないし、ボールを取るのも難しい。老若男女に関係なく、楽しめるスポーツではないかと感じました。人数を集めて「全町キックベースボール大会」なんかをやったらおもしろいのではないかと考えてみたり...みなさんいかがでしょうか？